

しずおか一輪 「はじまりの日」 イベント報告書

【開催結果概要】

- ・ 来場者：92名（関係者含む）
- ・ 報道：2社（静岡新聞、静岡朝日テレビ）
- ・ 花の配布：ガーベラ400本配布
- ・ 市民アンケート：多数の前向き意見
- ・ 主な成果：
 - 「しずおか一輪」の理念共有を開始
 - 市民・民間・行政の共創の機運を醸成
 - 今後の展開に向けた具体アイデアを獲得



1 イベント概要

日時

2026年 6月6日(土)
午前11時から12時30分まで
開場：午前10時45分から

会場

ARTIE ARTGARDEN
(アルティエアートガーデン)
静岡市葵区七間町4番地

内容

- ・アドバイザー就任式
- ・市長による「しずおか一輪」の概要紹介
- ・石原和幸氏による特別講演

【参加者】

・花と緑のまちづくり協議会	8名
・静岡市造園緑化協会	13名
・静岡市議会	9名
・その他関係者	4名
・一般来場者	58名
合計	92名

本イベントは、「しずおか一輪」の始動にあたり、その理念と方向性を市民・事業者・関係団体と共有し、共創による花と緑のまちづくりの機運を高めることを目的に開催した。

従来の取組は個別・分散的であったが、本プロジェクトでは「しずおか一輪」という合言葉を起点に、市全体へ広がる統一的なブランド形成を目指すものである。



2 しずおか一輪アドバイザー 石原和幸氏 講演概要

(1) 自己紹介・これまでの経歴

- 元々はモトクロス選手を目指していた
- 家族（父親）の影響で花に関心を持つ
- 22歳で生け花を開始
- 路上販売から花ビジネスへ

(2) 花の仕事を選んだ理由

- 花は一生続けられる仕事
- 人に喜ばれる価値がある
- 小規模でも成立するビジネス

(3) しずおか一輪の提案背景

- 静岡は花の生産量が多いが消費が少ない
- 観光客が滞在せず帰ってしまう
- 街を「滞在したくなる場所」にする必要

(4) 一輪の花という考え方

- まずは誰でもできる行動から
家
店舗
人（胸につける）
- 花を「飾る＋プレゼントする」文化へ
- 日常の中で花を見る機会を増やす

(5) 目指す効果

- 花が好きな人を増やす
- 消費が増え、産業が成り立つ
- 世代を超えた文化になる



(6) まちづくりの具体アイデア

- 商店街の演出
街灯のプランター＋コンテナガーデン装飾
(空中ガーデン構想)
写真を撮りたくなる空間
- 店舗前での滞在時間の増加
→ 店舗売上の向上

(7) 仕組みづくりの重要性

- 維持には資金が必要
- ボランティアだけでは不可
- 仕組み
ふるさと納税
企業協賛
雇用創出

(8) 都市事例（渋谷）

- 企業広告費で駅前の花壇を維持
- コンテスト形式で店舗参加
(公園通りガーデンコンテスト)
- 楽しく競いながら質が向上

(9) 自身の実践事例（長崎・三原庭園）

- 空き家エリアに庭を整備
- 民泊・店舗として再生
- 評価向上（観光資源化）



2 しずおか一輪アドバイザー 石原和幸氏 講演概要

(10) 市民への呼びかけ

- 日常で花を購入する習慣づくり

記念日でなくても花買う

(飲み会の日・給料日・年金支給日)

- SNSで発信
- 「一輪」を生活に取り入れる



【質疑応答】

(1) 静岡の魅力について

- 富士山・食・自然など強み
- それを活かしきれていない
- 花と組み合わせで集客するべき

(2) 他都市事例（福岡）

- 官民連携で花のまちづくり
- チェルシーフラワーショー視察
(行政・議会・経営者が同行) → 導入
- 市民教育・コンテスト・企業協賛の仕組み

(3) 他都市事例（チェルシーフラワーショー）

- 5日間でクリスマスの5倍の売上
- 地域が楽しみながら130年続いている

2 しずおか一輪アドバイザー 石原和幸氏 講演概要

【質疑応答】

（４）人材育成

- 講座→技術習得→担い手化
- コンテスト参加→レベル向上

（５）文化形成の考え方

- 家庭＝家＋庭
- 庭が会話を生む
- 花と緑がどのようにしたら楽しいかということ
を、小さなセミナーなどを含めて広げていければいい
- マンションでもできる工夫（室内・ベランダ）
- 花と緑が多いことで不動産価値も上がる
- メディア・有名人（スポーツ選手、芸能人）も活用

（６）行政・市民の関係

- 強制ではなく「楽しさ」で広げる
- 市民の意識変化が重要
- 花に興味を示してくると公共の緑を楽しむ方々の意見が増えてくる

（７）産業としての展開

- 造園・花屋の活性化
- 花屋の勉強会、造園業の勉強会を静岡でやる
- 世界市場への展開（チェルシー等）
- 技術向上・人材確保

3 しずおか一輪アドバイザーからの提案

■ 静岡駅前地下入口



■ 青葉緑地



【静岡の将来像】

- 花によるまちの価値向上
- 写真を撮るようになる
- 美しいまち静岡市に住みたくなる
- 2拠点生活の実現（東京⇄静岡など）
- 若者・外部人材の流入

【講演から得られた主な示唆】

① 行動の起点は「一輪の花」

→ 誰でも実践できる小さな行動が普及の鍵

② 「花を増やす」から「花を好きな人を増やす」へ

→ 人材・共感の育成が持続性を左右

③ 滞在型のまちづくりへの転換

→ 花と緑の演出により滞在時間・消費の増加が期待される

④ 財源・運営の仕組み化の必要性

→ 企業協賛・寄附など複合的なモデルが不可欠

⑤ 参加の仕組み（コンテスト・イベント等）

→ 見る側から関わる側への導線設計が重要

4 一輪の花のプレゼント ～花、だれに渡そう～

【来場者へガーベラの花を一輪プレゼント】

花を誰かにプレゼントをする、自分へプレゼントとすることで、花を見て楽しんで好きになってもらう、花を持つ人々でまちを彩るのが狙い。

- 「花、だれに渡す」という企画は、花のある暮らし研究所という花屋さんとの協力により実施。イベント前後に花屋さんのInstagramにて「しずおか一輪」の情報発信を行って頂いた。花屋さんのお客さんや通行人も、一輪のガーベラをきっかけにして、イベントに引き込むことができた。



【実施効果】

- ガーベラ400本を配布し、市民の参加意識を喚起
- 通行人を含む新規参加者の呼び込みに成功
- SNS（花屋Instagram）を通じた情報発信を実施



5 来場者からのアンケート結果

来場者アンケートでは、本取組に対する期待感や参加意欲を示す意見が多く寄せられた。全体として、「花と緑あふれる静岡市になってほしい」「心が豊かになる取組であり、今後の展開に期待する」といった前向きな感想が目立った。（アンケート回答数22）

【主な意見】

- ・ 市民への周知・広報の強化が重要であり、マスコミ、SNS、テレビ等を巻き込んだ発信が必要
- ・ 勉強会、コンテスト、イベント週間、花壇づくりのマッチングなど、市民が参加しやすい企画を望む
- ・ 静岡駅周辺や地下空間、駿府城公園等に花と緑を感じられる象徴的な場所を整備してほしい
- ・ 一輪の花を飾る取組を、商店街、事業者、マンション、公共空間などへ広げていくとよい
- ・ ボランティアだけでは継続に限界があるため、寄附、企業協賛、雇用創出など持続的な仕組みづくりが必要
- ・ 静岡らしい代表的な花や、季節ごとの見どころをつくり、来訪動機につなげてほしい
- ・ 「石原氏の講演に元気をもらった」「参加できることがあれば関わりたい」「小さな取組から100年続く運動になってほしい」など、今後の展開への期待

6 ロゴマークの活用

【ロゴマーク作成の意図・効果】

（１）ロゴマーク作成の意図

本ロゴマークは、「しずおか一輪」の理念を市民・事業者・行政間で共有し、取組の認知向上を図るために作成。「一人ひとりの小さな行動がまち全体に広がる」という思想を基盤としており、ロゴマークはその象徴として以下の考え方を反映している。

- ・ 一人ひとりの関わりが「一輪」となって広がるイメージ
- ・ 市民・事業者・行政が同じ方向を向いて取り組む一体感
- ・ 静岡らしい温暖な気候と花・緑への親しみやすさの表現
- ・ 子どもから大人まで直感的に理解できるシンプルな構成
- ・ また、単なる装飾ではなく、合言葉とともに使われることで、プロジェクトの思想や参加意義を視覚的に伝える役割を持つ。



6 ロゴマークの活用

(2) ロゴマークの役割

- ・ ロゴマークは、「しずおか一輪」を象徴する共通の視覚言語の役割を担う。
- ・ 各種媒体（看板、チラシ、Web、イベント）における統一感の確保
- ・ 共通のシンボルを用いることで、参加者間に一体感が生まれ、継続的な活動につながる効果が期待される。また、これまで点在していた取組を「一つの流れ」として見せる役割も担う。
- ・ 参加のきっかけとなる“入口”の創出 ⇒ 「かわいい」「かっこいい」からの導入
- ・ ロゴを広報物やイベントで統一的に使用することで、プロジェクトの認知度を効率的に高めることができる。
- ・ 特に、背景パネルや写真・映像にロゴが映り込むことで、視覚的に印象づけられ、継続的な露出によるブランド形成が期待される。



6 ロゴマークの活用

■ ステージ上の大型看板・モニターディスプレイへの表示



■ 委嘱状への印刷



■ イベントチラシへの印刷



■ スタッフTシャツ



■ 花にタグ添付、ステッカー配布



※ロゴマークだけで「しずおか一輪」と認識できるように数多くの場面で意図的に使用した。